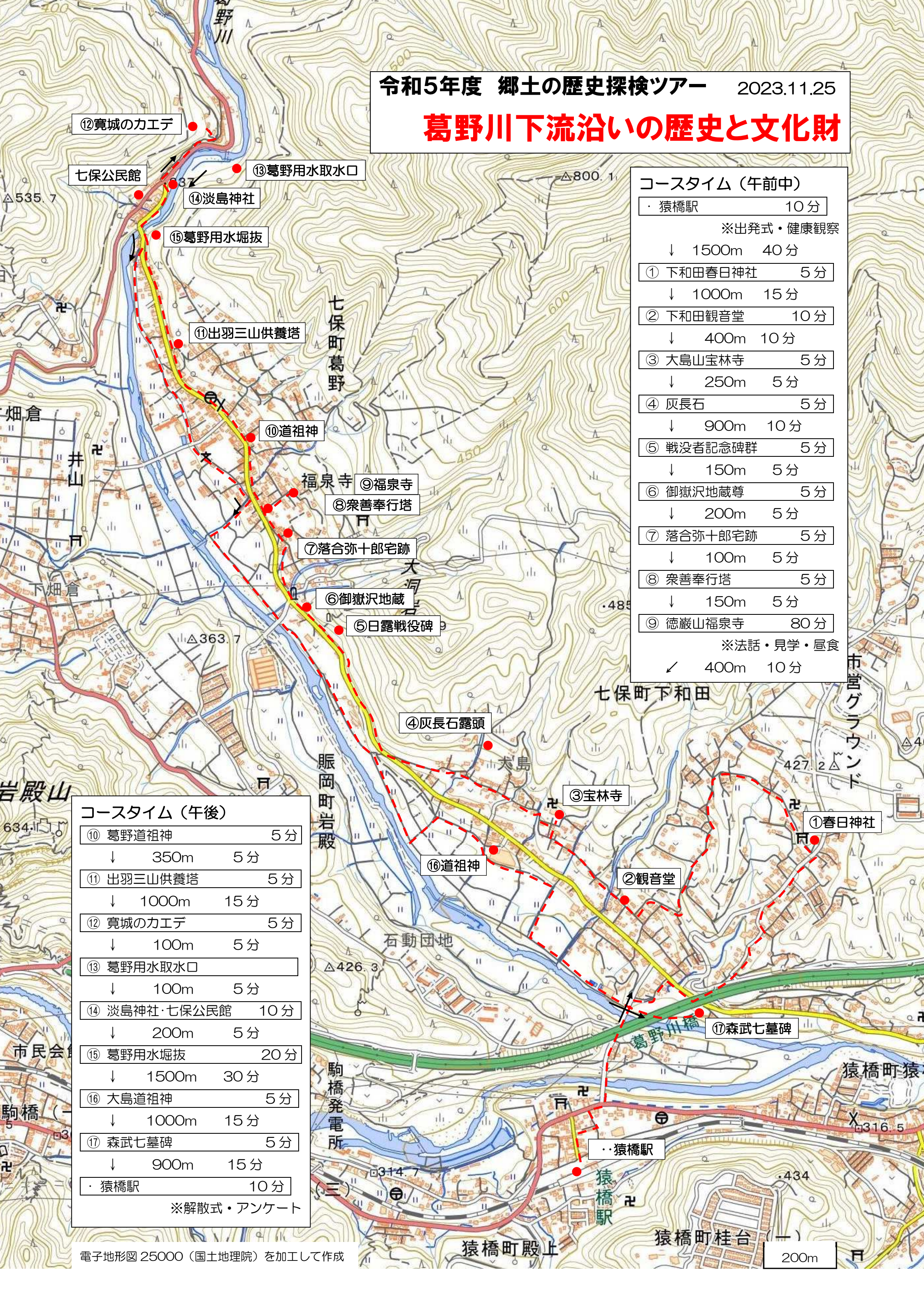


葛野川下流沿いの歴史と文化財



コースタイム (午前中)

・猿橋駅	10分
※出発式・健康観察	
↓ 1500m	40分
① 下和田春日神社	5分
↓ 1000m	15分
② 下和田観音堂	10分
↓ 400m	10分
③ 大島山宝林寺	5分
↓ 250m	5分
④ 灰長石	5分
↓ 900m	10分
⑤ 戦没者記念碑群	5分
↓ 150m	5分
⑥ 御嶽沢地藏尊	5分
↓ 200m	5分
⑦ 落合弥十郎宅跡	5分
↓ 100m	5分
⑧ 衆善奉行塔	5分
↓ 150m	5分
⑨ 徳巖山福泉寺	80分
※法話・見学・昼食	
↙ 400m	10分

コースタイム (午後)

⑩ 葛野道祖神	5分
↓ 350m	5分
⑪ 出羽三山供養塔	5分
↓ 1000m	15分
⑫ 寛城のカエデ	5分
↓ 100m	5分
⑬ 葛野用水取水口	
↓ 100m	5分
⑭ 淡島神社・七保公民館	10分
↓ 200m	5分
⑮ 葛野用水堀抜	20分
↓ 1500m	30分
⑯ 大島道祖神	5分
↓ 1000m	15分
⑰ 森武七墓碑	5分
↓ 900m	15分
・猿橋駅	10分
※解散式・アンケート	

## 下和田春日神社

808（大同 3）年に百蔵山頂に「百蔵山春日大明神」として創建。1306（徳治元）年に山火事で社殿焼失し、1353（文和 2）年に現在地に遷座。現在の本殿は 1809（文化 6）年に新築、外壁彫刻は 1831（天保 2）年に施された。

本殿の彫刻は作者不明ながらも見事で、三方の胴羽目は、右「仙人の烏鷺（爛柯）」、背「桃園の誓い」、左「許由と巢父」の中国の故事を題材にして彫られている。（詳細は別紙）

総本社は奈良県の春日大社。祭神は春日神（春日神とは中臣氏・藤原氏の氏神である、武甕槌命・経津主命・天兒屋根命・比売神（同姫大神）の 4 神の総称）と建相殿神として建御名方命。また、春日大明神とは神仏習合の神で、春日神の本地仏はそれぞれ不空羂索観音・薬師如来・地蔵菩薩・十一面観音を本地仏とする。

## 下和田観音堂

1880（明治 13）年、小菅村長作観音堂に祀られている如意輪観世音を分霊して建立。

長作観音堂は、長作の地で難産により亡くなった人皇第 6 代孝安天皇皇女の霊を慰めるために聖徳太子が刻まれたという如意輪観世音を祀り、807（大同 2）年に現在地より東方 500m ほどの神楽入の地に建立され、後年現在地に遷座されたと伝えられている。

皇女が臨終の際に残したとされる「婦女我を祀り…信心念力堅固なれば我守って安産を得せしむ…」の言葉と、皇女が褥とした葎（あし）の茂みには翌年から片葉の葎が生えるようになったとの伝説から、安産御利益の観音堂として有名になり上野原・大月方面から多くの参詣者を集めた。

下和田観音堂では、昭和の初期まで安産を祈念して長作より頂いた片葉の葎が配られ、昭和 20 年代までは毎年 1 月 16 日の縁日には近郊一円から参詣者が雲集し盛大を極めたという。

## 大島山宝林寺

1570（元亀元）年 2 月、都留市下谷の大儀山

長生寺（曹洞宗）の末寺として長生寺五世明庵宗鑑禅が開山した。本尊は地蔵菩薩。1965（昭和 40）年 2 月 21 日、失火により本堂、庫裏、宝物、旧記等も焼失。現在の本堂は葛野の民屋の寄進を受けて 1967（昭和 42）年に再建された。

参道脇には庚申塔（享保 2 年）・念三夜供養塔（宝暦 9 年）・三界万霊等（年代不詳）他、破損を含めて 17 体ある。

本堂の東に高さ 180cm ほどの五輪の塔が立っている。郷土史家の鈴木美良氏や近くの案内板によると、小山田出羽守信有（信茂の父）が佐久郡侵攻（1547（天文 4）年）での戦功の褒美として与えられ、妾とした志賀城主笠原新三郎清繁の妻の墓であるとしている。また、『ふるさと葛野のあゆみ』（鈴木伝一編著 1980）には、「鎌倉時代の作といわれる」との文言がある。ともに、推測、伝聞の域を出ない。

## 大島の灰長石

灰長石は長石の一種で、カルシウム分に富んだ鉱物。火成岩（マグマが冷えて固まった岩石）などに含まれるが、大島の灰長石のように直径 3cm～5cm という大型のものは珍しく、非常に貴重なものとして山梨県の自然記念物に指定されている。

## 葛野戦没者慰霊碑

<葛野忠魂碑> 「忠誠通天」の篆額は元大勲位賀陽宮恒憲王（かやのみや つねのりおう）より下賜されたもの。その下に建碑の由来と満州事変（1931（昭和 6）年）から始まり、日中戦争（1937 年～）を経てアジア・太平洋戦争（1941 年～）で終わる「十五年戦争」の将兵戦死者 220 名（陸軍 192 名・海軍 28 名）の氏名が刻まれている。1956 年に七保町戦傷病者遺家族等援護会により建立。

<日露戦役記念碑> 乃木大将による揮毫で、「希典」の落款（署名）がある。裏面には、七保村戦死者（10 名）と日露戦役参加兵員（77 名）の氏名が刻まれている。1910（明治 43）年建立。

<忠魂碑と墓石群> 上の 2 つの慰霊碑の右側

にある石段を上り詰めた所に忠魂碑（1935 年建立）が一基あり、さらに続く山道を登ったその先の徳巖山中腹の開けた場所には、個別に戦没者名を記した 15cm 角の高さ 50cm ほどの墓石型石柱が 200 柱あまり整然と並んでいる。

### 御獄沢地蔵尊

1935（昭和 10）年 9 月 26 日、5 日前から降り続いた豪雨が止んだ日の早朝、七保村の御獄沢で土石流が発生し、下流の集落を呑み込んだ。

翌 27 日の新聞には「生埋め十九名 葬式準備中四家族が遭難」との見出しのついた記事が掲載された。さらに、29 日の新聞は、「葛野の遭難者を発見 神奈川県下で八名」として、犠牲者が桂川・相模川を流れ下り大磯海岸・平塚海岸で発見されたことを伝えている。

地蔵尊は、犠牲者の慰霊と再び災禍に見舞われないことを願い七保村民により 1940 年 12 月に建立された。

### 徳巖山福泉寺

臨済宗建長寺派。1396（応永 3）年に本願義州禅師より開山。本尊は釈迦牟尼如来。

1788（天明 8）年に諸堂宇が焼失するものの、本尊は難を逃れた。現在の堂宇は 1821（文政 4）年に再建されたもの。

境内には石造物が多く見られ、裏山には茶室や郡内 33 観音 21 番札所として知られる「圓通閣」がある。

観音堂の本尊は如意輪観世音菩薩で、扁額の表には「葛かずら しげきが本に たづねきて むすぶ清水に あらふ こけの身」の御詠歌が、裏には「文化十五年戊寅七月〇日」の文字が読み取れる。文化十五年は 1818 年。

参道入口には高さ 2m ほどの「衆善奉行」の石塔がある。天保 11（1840）年建立。

### 倉崎の石燈籠・道祖神

〈石燈籠〉 火袋下の棹の前面に秋葉山大権現、右側に愛宕山大権現、左側に金毘羅大権現、裏面

に文化二乙丑季冬とある。文化 2 年は 1805 年。台座には盃状穴（はいじょうけつ）がある。

秋葉権現、愛宕権現は、それぞれ静岡県秋葉山、京都府愛宕山の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神で、ともに火伏せ（火防）の霊験があるとされ、全国各地に分社が勧請され「講」が組織された。金毘羅権現は香川県琴平町象頭山（そうずさん）の神仏習合の神。海上交通の守り神であるとともに、水を司る神として、火伏の信仰もある。

〈道祖神〉 前面に道祖神、右側に明和八辛卯六月吉日、左側に当所上村とある。明和 8 年は 1771 年。上面中央に円形の鍋状の穴があり、大きな丸石が安置されている。全面的に小丸中丸十数個置かれている。

道祖神は、塞（さい）の神とも言われ、村境、坂、辻、橋の袂などに祀られ、外から襲ってくる疫病や悪霊を防ぐ神であったが、のちに、通行人の安全を守る道路の神、縁結びや縁切りの神、安産や子育ての神、子供の神としての信仰に変わっていった。

### 三山供養塔

羽黒山・月山・湯殿山は山形県中央部にそびえる峰続きの山で、「羽州三山」・「出羽三山」などの呼称はこの三峰の総称である。

供養塔は三山参拝の記念に 1790（寛政 2）年 8 月に建立された。台石は左右 2 枚よりなり、向かって右側には 7 名、左側には 10 名の氏名が刻まれているが判読不能。厚さ 40cm、幅 160cm、高さ 190cm で市内に 4 つある三山供養塔の中で最大のものである。

羽黒山には伊氏波神（いではのかみ）・稲倉魂命（うかのみたま）、月山には月読神、湯殿山には大山祇神・大己貴神・少彦名神とそれぞれの山に座す神も違い、背負う歴史も違うが、平安時代から修験道の道場として発展してきた。また、神仏習合の考えからそれぞれの神の本地仏は聖観世音菩薩、阿弥陀如来、大日如来とした。

江戸時代には、羽黒山は現世の幸せを祈る山

（現在）、月山は死後の安楽と往生を祈る山（過去）、湯殿山は御神体とされる巨岩から湯が沸き出る様を新しい生命を表すものとして生まれ変わりを祈る山（未来）であるとして、三山を巡礼すれば生きながらに新たな魂として生まれ変わることができるとする羽黒修験道の教えは、庶民の間に「生まれ変わりの旅」として広まり、多くの人が「講」を組織して参拝した。

＜道標＞ 正面に「南無阿弥陀佛」とあり、「右あさかわ道」・「左八い（以下不明）」とある。

### 淡島神社

説明板によると、「江戸時代、淡島明神の笈を背負った勧進僧がこの秩父大道、集落の元屋方に宿泊して屋敷神様として祀ったのが始まり」とある。

勧請元の淡島神社は、和歌山県加太にある神社で、婦人病に効験ありとされ、江戸時代に、淡島願人と呼ばれる人々が、淡島神の入った厨子を背負いその徳を説いて回ったことにより、婦人病や安産など、女性を救済する神として全国に信仰が広まった。（参考「WEB版新纂浄土宗大辞典」）

＜灯籠流し＞ 説明板には8月15日の祭典に子供神輿や灯籠流しが行われているとあるが、現在は少子化などの理由により中断されている。代って、平成4年より、先祖を供養し地域活性化を図るため、県道七保橋から国道に続く葛野川沿いの胸壁上に400個あまりの灯籠が飾られる。

### 寛城のカエデ

東向きの緩斜面に広がる寛城地区集落の上方に鎮座する浅間神社に両脇に立つ2本の大木のうち、向かって左側の木。

樹種はイロハカエデで、別名タカオモミジとも呼ばれているカエデの代表種。

根元の周囲3.3m、目通り幹囲2.9mで、幹は右巻きにねじれ、枝を東西に約15m、南北に約9m張り出している。樹冠はほぼ球形で美しく、樹勢も盛んで、イロハカエデの巨樹として市内最大。

例年、11月下旬に紅葉の見ごろを迎える。

### 葛野の用水路

村絵図（江戸時代・年代不詳）には、和田原を取水口とし、葛野・大島・下和田に水を供給する「上せぎ」と、沖組を取水口として下組まで続く「下せぎ」の2つの用水路が描かれている。

江戸時代の半ばを過ぎる頃になると、浸食作用により川底が下がり取水することが難しくなり、「上せぎ」では取水口を上流に求めて2度も大きな工事が行われた。

大口を掘りぬいて新しい取水口をつくる工事は、天明年間（1781～89）に始まり、1789（寛政元）年に完成した。富農で篤志家でもあった弥十郎が私財をなげうち、農民たちの協力を得る中で工事は行われた。

しかし、川底はさらに下がり、35年後の1824（文政7）年に2度目の工事が行われた。今回は、代官所も費用を負担し、難工事の末に高岩を50mほど掘り抜き、新たな取水口が完成した。

### 山王沢の石仏群

この辻には、北東の角に北から旧庚申塔（年代不詳）、新庚申塔（1757（宝暦7）年）、丸石道祖神（1787（天明7）年）、道祖神灯籠（1771（明和8）年）、馬頭観音（1849（嘉永2）年）、北西の角に南無阿弥陀仏の名号塔（1863（文久3）年）が群立する。

### 森武七墓碑

1836（天保8）年、飢饉と米価の値上がりに苦しむ郡内の農民たちが、下和田村の治左衛門（森武七）と犬目村の兵助を頭取に立て、熊野堂村（笛吹市春日居町）の米商人からの「押し借り」を目指した蜂起は、笹子峠を越えて国中の農民や無宿人たちが加わるとしだいに統制が取れなくなり、本格的な「打ちこわし」となって甲斐国一円に拡大した（天保騒動（甲州騒動・郡内騒動とも））。

その後、武七は兵助を逃がすと、罪をかぶって自首し、磔の刑を科せられたが、同年10月に石和の牢で獄死している。

墓碑は1854（嘉永7）年に建立された。

# 春日神社補足資料

## ■主祭神

- 天兒屋根命（あめのこやねのみこと）  
中臣氏の祖神。  
天照大神が天の岩屋戸に隠れた時占いを  
行ない、祝詞を唱えた。天孫降臨に従った五部神  
（いつとものおのかみ）の一神。

- 同姫大神（どうひめのおおかみ＝比売神）  
主祭神の妻を指す。

- 武甕槌神（たけみかづちのかみ）
- 経津主神（ふつぬしのかみ）  
両神ともに天照大神より高天原（たかまが  
はら）より豊葦原中国（とよあしはらのなかつ  
くに）に遣わされ、国津神の主祭神である大国  
主命との国譲りの交渉に成功する。

## ■相殿神（本殿に共に祀られている神）

- 御名方命（たけみなかたのみこと）  
大国主命の子。国譲りの交渉の際に、武甕槌  
神に力比べを挑むが敗北。諏訪湖まで逃亡す  
るものの、追い詰められた末に国譲りに同意  
する。

## ■末社（主祭神と関わりの薄い神を祀る小社）

- 疱瘡神社
- 八幡神社
- 稻荷神社

## ■春日神社の彫刻解題

右面の胸羽目 //

### 仙人の烏鷲・爛柯（らんか）

木樵（きこり）が山中で迷っていると、2人の  
仙人が囲碁を打っている所に出くわした。木樵  
がしばらく対局を観戦していると、一人の仙人  
に「帰らないのか？」と声をかけられた。気がつ  
くと樵の持っていた斧の柄が腐っていた。

囲碁に夢中になりすぎると時の経つのも忘れ

てしまうことを、仙人にとっては短い時間でも  
人間にとっては悠久の時が経過していることで  
表している中国の故事。

遊び（囲碁）などに時を忘れて夢中にならず大  
切な時間を有効に過ごせという教え。

なお、烏鷲の烏はカラス色（黒）、鷲はサギ色  
（白）から碁石を表現している。

また、仙人を童とした「爛柯」（らんか）（＝斧  
の柄が腐る）という同様の故事もある。ちなみに、  
斧の柄のことを柯、朽ちることを爛という。

背面の胸羽目 //

### 桃園の誓い（とうえんのちかい）

『三国志演義』の序盤に登場する劉備（中央）・  
関羽（左）・張飛（右）の3人が、桃園で義兄弟  
（長兄・劉備、次兄・関羽、弟・張飛）となる誓  
いを結び、「我ら3人、生まれた日も時も違えど  
も、死する日は同じ事をここに願うなり」と生死  
を共にする宣言を行ったという創作上の逸話。

力を合わせて事にあたることの大切さを教え  
ている。

左面の胸羽目 //

### 許由（きょゆう）・巢父（そうぼ）

許由・巢父はともに、中国古代の伝説上の隠者。  
帝堯（ぎょう）からその高德を認められて天子  
の位を譲られるも固辞し、汚い話を聞いたとし  
て潁川（えいせん）の水で耳を洗った許由と、そ  
こへ牛に水を与えるために通りかかり、許由の  
耳を洗う理由を聞くと、汚れた水を牛に飲ませ  
るわけにはいかないとその場を去った巢父を題  
材にしている。

世俗の栄達にとらわれず、高潔でいることの  
教え。

## ■参考 市内で彫刻の見事な神社

- 下真木諏訪神社（高尾山諏訪大明神）
- 朝日小沢諏訪神社

# 下和田観音堂補足資料

## ■下和田の観音さんの由来と現状のあらまし

- ① 下和田観音は明治 13 年（別紙資料では明治 15 年）に小菅村長作からこの地域の安産の靈験を願って勧請（神仏の分霊を請い迎えて祀ること）したものです。
- ② 勧請には周辺地域（七保全域、猿橋、鳥沢、賑岡等）の協力を得ながら、下和田地区が、地区のものとしてお堂を建て観音像を祀ったと伝えられています。
- ③ 祀りの縁日は 1 月と 8 月の 16 日とされてきました。昭和 20 年代までの縁日祭典には、近隣の地域から多くの人々が参詣に訪れ盛況を極めていたようです。
- ④ けれど医療機関の整備等生活環境の変遷とともに、安産を神仏へ祈願し、参詣する人も激減して昭和 30 年代後半には観音堂も荒廃していきました。
- ⑤ 当時の関係者は、下和田観音は、この地域の人々が、安産を願う心の拠り所としていたという、昔の暮らしを伝えるものとして保存し、次の世代に遺していこうと考えました。
- ⑥ 観音さんの主要な保存行事である祭典を、下和田地区の祭りとして位置づけ、下和田の各地区毎に、観音さんの世話役員を選び出しました。世話役員は、戸毎に「燈明銭」をお願いしその募金で、納経等の祭典行事と、観音堂の保存管理を行うという仕組みを作りました。
- ⑦ 昭和 50 年代になって地域のご理解を得ながら、この仕組みを更に充実させ、現在のような各地区の役員を通じて全戸の方々から「祭典費」のご負担をお願いするようになりました。
- ⑧ 全戸負担の方式ができたので、観音さんの恒久的な保存が可能になったとして、昭和 53 年 1 月 16 日、観音堂の構内に「長作観音分霊之碑」を建立し、下和田観音の由来が分かり易いようにしました。
- ⑨ 本家の長作観音は、本尊が国宝「如意輪観世

音菩薩像」で、これを祀る堂宇は重要文化財です。また、毎年祭典は、小菅村の行う「多摩川源流祭り」の一環として行われています。

- ⑩ 現在、下和田観音の保存会役員は、次の各地区から選出されています。

吉窪・溝東・和田原・沢向・島田・寺原 12・寺原 34・大貫・井尻宮原・小萩百蔵

選出された各地区の役員の方々により、保存行事や、祭典の開催行事を行っています。また花井寺には、祭典行事に必要な納経や助言、お札等の保管をお願いしています。

## ■観音堂入口案内板

一世紀 第 6 代孝安天皇の頃霊峰富士山が初めて姿を現した庚申の年、人目をさげ甲斐国に向った孝安天皇の皇女ご一行は今の小菅村長作あたりご難産に苦しみ無念にもお亡くなりになったという。六世紀の頃この話をお聞きになった聖徳太子は自から観音像を刻み皇女の霊を供養し大同 2 年（807）には立派なお堂が建立された。以後この里に難産で苦しむ人はないと伝へる。下和田観音堂はこの靈験にあやかりたいとこの地区の有志により、明治 13 年（1880）長作より勧請されたものである。

昔から女性にとって安産は最大の願望であったから人々は常に行いを慎み日頃から善行に心がけ神霊に近づく習わしがあった。

昭和初期までは産婦のために皇女が産床に敷いたという葎荒の片葉の葎を長作から頂き安産を祈念して配られ毎年 1 月 16 日の縁日には七保町はもとより近郷一円から参詣者が雲集し盛大をきわめた。

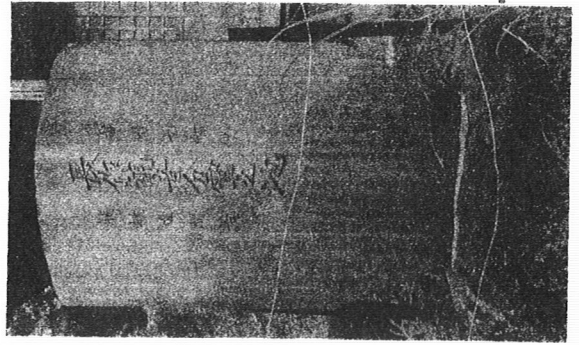
この説明版は人々の生活を長く守り支えてきた地区文化財の由来を伝へ保護するためにふるさと創生事業により建てる。

平成 3 年 12 月

七保公民館

下和田観音の由来を記す資料としては、伝説とも史実とも決め難い、  
次の資料「下和田の観音さま」が遺されています。

下和田の観音堂構内に「長作観音分霊之碑」を  
建立した際、地区内に配布されたようです。  
～内と写真を除き原文に従い転記しました。



昭和53年 下和田観音堂構内に  
建立された、長作観音分霊之碑

### 資料

#### 下和田の観音さま

甲斐国北都留郡小菅村字長作に長作観音の堂あり

大同二年(今より一一七〇年前)の創建にして、本尊は如意輪観世音菩薩にして  
国宝に指定され、堂宇は昭和二十七年復元修理されて重要文化財に指定さる

其の由緒書に 注 この由緒書は現在長作でも見当たりません

人皇六代孝安天皇ノ皇女、本村長作ニ来臨シテ難産ノタメ覺ス

聖徳太子其の原由ヲ以テ 大同二年如意輪観世音ノ像ヲ刻ミ神楽入ニ安置

安産ト身宮ノ安泰ヲ祈念ス 茲来難産ニ苦シム者無

皇女腹ヲ敷キ産ヲ為シ給ヒシニ産難シテ苦シミノ余り腹ヲ握リ給ヒシ時近傍ヨリ

八翼ノ雉羽音高ク飛ビ立ち 其ノ羽音ニ驚怖シ給ヒ御誓ニ「婦女我ヲ祀リ

雉卵ヲ食セズ信心念力堅固ナレバ我守ツテ安産ヲ得セシム 雉ハ我ガ忌ム

モノナリ」ト遂ニ覺ス

其ノ後不思議ニモ片葉ノ葎ガ生ヘソノ地ヲ葎荒シ(吉原)ト云フ

安産ヲ祈願スル者片葉ノ葎ヲ敷キ産褥トシ靈感ヲ得

当地下和田及び近隣に於ても難産に苦しみ又一命をも落とす者少なからず除難を願ひ  
佐野峠を越えて祈願するもの後を断たず 明治十五年某氏有志と計りて難産にて

旬宛々する者の追善供養と、安産を願ふ者の御利益を祈つて当地に観音様の像を刻み  
堂宇を建立し、一月十六日と八月十六日を縁日と定め靈験を紹じて念力にすがるものなり

その後地元のお祭りとして盛況を極めて居りましたが時勢の然からしむる処信仰は

すたれ堂宇は破れ荒廃の一途をたどりつつある時 下和田区のお祭りとして各戸に

願つて燈明錢をつのり縁日祭典を催し又その資金にて堂宇の保全修理をしからうじて

その形を留めて居る次第です

依つて思ふ所あり昨年祭典世話人及び関係者の浄財出費に依り「長作観音分霊之碑」

を建立し永久保存を印する事が出来ました

昭和五十三年一月十六日 ここに除幕に際して

由緒の一端をお伝へすると共に、これに関する縁起等ありませんので資料等

御心当のある方は御一報お願ひする次第です

下和田観音講



# 令和5年度 郷土の歴史探検ツアー

## 1 目的

市内各所に存在する文化遺産を見学することにより、郷土の歴史についての知識・理解を深め、また、参加者が大月市の歴史や文化財について理解することにより郷土の良さを再発見する機会を提供することを目的とする。

## 2 テーマ

「葛野川下流沿いの歴史と文化財」

## 3 コース

見学地・歩行距離		プログラム		
⑤猿橋駅	10分	09:00 集合	09:10 発	出発式 社会教育課 本殿彫刻
↓ 1500m	40分			
①下和田春日神社	5分	09:50 着	09:55 発	
↓ 1000m	15分			
②下和田観音堂	10分	10:10 着	10:20 発	安産祈願(長作観音から勧請) 内部見学
↓ 400m	10分			
③宝林寺	5分	10:30 着	10:35 発	五輪塔(小山田出羽守信有夫人墓?)
↓ 250m	5分			
④灰長石	5分	10:40 着	10:45 発	露頭(道すがらに説明)
↓ 900m	10分			
⑤日露戦役記念碑	5分	10:55 着	11:00 発	乃木希典揮毫
↓ 150m	5分			
⑥御嶽沢地藏尊	5分	11:05 着	11:10 発	水害記念碑
↓ 200m	5分			
⑦落合弥十郎宅跡	5分	11:15 着	11:20 発	落合弥十郎宅跡地 葛野用水・宝林寺
↓ 100m	5分			
⑧衆善奉行塔	0分	11:25 着	11:25 発	石造物(禅宗) 福泉寺にて説明
↓ 150m	5分			
⑨徳巖山福泉寺	80分	11:30 着	12:50 発	本堂(本尊・襖絵)・観音堂 昼食 講師:住職(依頼)
↓ 400m	10分			
⑩葛野道祖神	5分	13:00 着	13:05 発	石灯笼(市内最大・火伏)
↓ 350m	5分			
⑪出羽三山供養塔	5分	13:10 着	13:15 発	石造物(修験)
↓ 1000m	15分			
⑫寛城のカエデ	5分	13:30 着	13:35 発	市指定天然記念物
↓ 100m	5分			
⑬葛野用水取水口	0分	13:40 着	13:40 発	道すがらに眺める
↓ 100m	5分			
⑭淡島神社	10分	13:45 着	13:55 発	灯笼 七保公民館で説明(トイレ)
↓ 200m	5分			
⑮葛野用水掘抜	20分	14:00 着	14:20 発	用水路概要(七保橋南詰にて) 講師:鈴木英夫氏
↓ 1500m	30分			
⑯大島道祖神	5分	14:50 着	14:55 発	石造物(庚申塔・青面金剛)
↓ 1000m	15分			
⑰森武七墓碑	5分	15:10 着	15:15 発	天保の郡内騒動
↓ 900m	15分			
⑱猿橋駅	10分	15:30 着	15:40 解散	解散式・アンケート